

広報

# うわじまちくしょうぼう

第84号

宇和島地区消防本部  
宇和島地区防火協会  
http://www.119.uwajima.nanpu.or.jp/

## 春の火災予防運動

3月1日(金)～3月7日(木)

### 「忘れてない? サイフにスマホに 火の確認」

#### 【住宅防火 いのちを守る 7つのポイント】

##### ≪ 3つの習慣 ≫

- 1 寝たばこは、絶対やめる。
- 2 ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- 3 ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

##### ≪ 4つの対策 ≫

- 1 逃げ遅れを防ぐために、**住宅用火災警報器**を設置する。
- 2 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、**防炎品**を使用する。
- 3 火災を小さいうちに消すために、**住宅用消火器等**を設置する。
- 4 お年寄りや身体の不自由な人を守るために、**隣近所の協力体制**をつくる。

春の全国火災予防運動  
3月1日～3月7日

10年たったなら、  
とりかえろ。



## 平成30年中の火災・救急速報



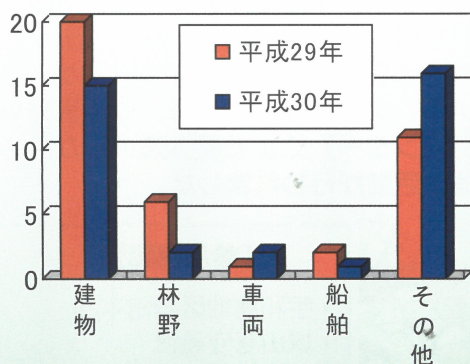
### 火災概況

※ 火災件数 36 件  
たき火 火災増加

平成30年中に宇和島地区管内で発生した火災は36件で、前年の40件に比べ4件の減少となっています。また、月平均出火件数は3件となり、およそ10日間に1件の割合で火災が発生したことになります。

火災種別では、建物火災15件、林野火災2件、車両火災2件、船舶火災1件、その他火災16件となっています。

出火原因では、たき火14件、配線器具3件、放火・疑い2件、マッサージチェア2件、たばこ2件、煙突2件などとなっています。



#### 【出火原因】

- ① たき火 14件
- ② 配線器具 3件
- ③ 放火・疑い 2件
- ④ マッサージチェア 2件
- ⑤ たばこ 2件
- ⑥ 煙突 2件



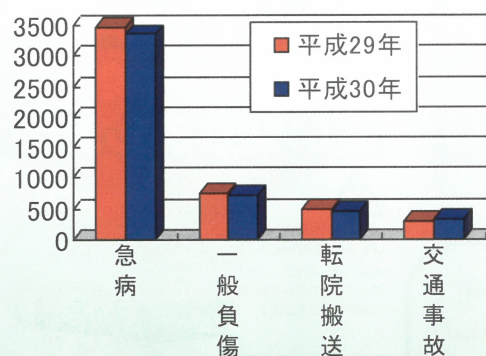
### 救急概況

※ 出動件数 4,972 件  
20人に1人が救急車利用

平成30年中の救急出場件数は4,972件で、前年に比べ133件減少し、搬送人員は4,600人で149人減少しています。

事故種別では、最も多いのが急病で3,352件、次いで一般負傷708件、転院搬送472件、交通事故328件などとなっています。平成30年7月豪雨の影響により、自然災害が11件となっています。

傷病程度別にみると、中等症が一番多く1,941人、次いで軽症1,847人、重症690人、死亡121人、その他1人となっています。



## 法改正により、全ての飲食店に 消火器の設置が必要となります。

平成28年12月22日に発生した糸魚川市大規模火災を受け、火を使用する設備又は器具を用いる飲食店については、原則として、

平成31年10月1日から延べ面積にかかわらず、消火器具の設置が義務となります。

ただし、防火上有効な措置が講じられた火を使用する設備又は器具のみを用いる飲食店については、火災危険性が低いと考えられることから、今回の消火器具の設置義務化の対象から除外されています。

あなたのお店に消火器はありますか?

2019年10月1日～  
火を使用するすべての飲食店に消火器具の設置が必要となりました。

飲食店  
火を使用する設備又は器具がある? はい いいえ

設置義務あり 設置義務なし

以下の装置があれば消火器具の設置は免除できます。

- 厨房内消火用装置
- 厨房内消火用装置(火災警報器)設置済みの場合
- 厨房内消火用装置(火災警報器)設置済みの場合
- 厨房内消火用装置(火災警報器)設置済みの場合

日本消防設備安全センター

## 『防災拠点に関する協定』(株)フジと締結

11月29日に株式会社フジと宇和島地区広域事務組合(消防本部)の間で「大規模災害時における防災拠点に関する協定」が締結されました。

本協定は、地震等により消防本部庁舎に倒壊危険等の甚大な被害が生じた場合又は津波による被害が想定される場合において、フジグラン北宇和島の施設を庁舎に替わる防災拠点とする協力要請に関し、必要な事項を定めています。

消防本部庁舎  
倒壊・津波浸水の恐れあり

↓

車両・資器材・人員を  
拠点移動 ⇒ 消防機能維持







11月9日、東温市の見奈良天然温泉利楽において、平成30年度愛媛県消防長会消防職員意見発表会が行われ、愛媛県下6消防本部から選抜された6名の消防職員が、業務に対する提言や取り組むべき課題等について意見発表を行いました。

当消防本部代表として、松田消防士は『次世代への防災バトン「体系的防災教育」』と題して発表を行い、みごと入賞しました。

### 次世代への防災バトン『体系的防災教育』

消防本部予防課  
松田直大



「想定外だった。」

自然災害が発生するたびに、テレビや新聞などでよく耳にする言葉です。

平成30年7月豪雨による災害は、私の住む宇和島市にも甚大な被害をもたらしました。当時の私は警備本部に居たため、被害の状況を現場からの無線や電話からしか得ることができませんでしたが、災害後、私自身が地域住民やボランティアの方々と共に復興に向けて活動する中で、災害による被害の状況を目の当たりにし、被害の大きさに愕然としました。

そんな中で、被災された方から、「こんな風になるなんて、全く想定してなかった」という言葉をよく耳にしました。

私達は防災の知識に基づいて、想像を膨らませて災害を想定しますが、知識がなければ災害に対して十分な想定を行うことができません。また、知識があっても本気で考えていないということもあり、私を含めて、今回の災害で多くの人が想定不足を実感したはずです。

一方で、地域防災の要となる若年層が高校卒業後、地元を離れたまま半数が戻って来ない状況から、宇和島市の少子高齢化は進行しており、それに伴って消防団員が減少し、地域の防災力は低下し続けています。

しかしながら、今後起こるとされる巨大地震やその他の災害には、防災・減災対策だけではなく、地域の防災力向上が欠かせません。

そこで私は、保育園、幼稚園といった幼少期から高校生までを対象とした『体系的防災教育』の導入を提案します。

『体系的防災教育』とは、子供の発達段階に応じて防災教育を行うものです。

例えば、災害経験が少なく視野の狭い幼少期には、子供達が集中力を切らさないように、楽しみながら出来る防災教育を通して、危険の判断方法や自分の身を守る最低限の知識と行動を学ばせます。

自ら考え、行動できる小学生には、基礎的な防災知識と災害によって起こる危険を予測することの大切さを学ばせ、中学生には、地域災害の特性と自分達が地域防災を担うことの重要性を学ばせます。

高校生には、これまでの防災教育を通して、災害発生時に自分の身を守るだけでなく、他人を思いやる精神を養い、災害と向かい合い生きていく力を身に付けさせます。

これらの防災教育を体系化し、幼少期から段階的に防災教育を行うことで、地域防災力を底上げするだけではなく、子供達が防災について将来に亘って学んでいける基礎を作り、災害に柔軟に対応できる姿勢を育みます。

また、教えられる側だった子供達が成長するに従って、教える側に立つことで、将来の防災の担い手を育成しつつ、バトンリレーのように次の世代へ防災教育の継続を図ります。

さらに、高校卒業までを対象に防災教育を強化することで、地域の防災力を維持し、将来の消防団員を育成するだけではなく、高校卒業後、地元を離れた先でも防災の担い手としての活躍を期待出来るのです。

ある日、突然やってくる自然災害に対して、子供達の災害に対する想定を広げる場を作り出し、効果的に運用することこそ、災害を経験した私達が、次世代へ引き継ぐべき防災のバトンではないでしょうか。

## スプレー缶の適切な処理について

ご家庭で使用しているスプレー缶の中には、可燃性のガスを含むものが数多くあり、使用や廃棄の方法を誤ると火災などの重大な事故につながります。スプレー缶本体に記載されている注意書きをよく読み、正しく使用・廃棄するようにしましょう。

### 【廃棄方法】

宇和島市、鬼北町及び松野町では、火の気のない屋外の風通しが良い場所で、中身を出しきった後、スプレー缶に穴をあけてから廃棄するようになっています。

穴をあける作業は、中身が残っていないことを確認した上で十分注意して行いましょう。

**必ずお守りください**

スプレー缶(エアゾール缶) カセットボンベは **必ず中身を使い切りましょう!!**

**火災事故が多発しています!**

中身の残ったスプレー缶(カセットボンベ)がごみに出されごみ収集車や、ごみ処理施設で、火災が発生しています。

スプレー缶の場合↓

**正しいごみへの出し方 4step!**

<b>step 1</b>	<b>step 2</b>	<b>step 3</b>	<b>step 4</b>
缶を手で握って中身の有無を確認してください。	「シューッ」など音がしたとき、中身の有無を確認してください。	音がしなくても、まだ中身やガスが残っている場合があります。必ず「ガス抜きキャップ」で出し切ってください。	可燃性のガスが漏れ出ないように、必ずキャップをしっかりとめてください。

## 文化財防火デー 宇和島城 防火訓練

1月26日は、法隆寺金堂壁画が焼損した日にあたり、文化庁では毎年この日を「文化財防火デー」と定めています。

宇和島市では地域防災計画に基づき、1月25日「宇和島城防火訓練」を実施しました。訓練想定は、城山天守西側山林から出火したもので、観光客から火災発見の知らせを受けた天守受付者が、消防本部に119番通報し、その後、観覧者の避難誘導、城山管理事務所員(宇和島市シルバー人材センター)による屋外消火栓からの放水及び消防隊による水幕・消火活動が行われました。



### 【参加機関】

- ・宇和島地区消防本部
- ・城山を守る会
- ・宇和島市
- ・シルバー人材センター(城山管理委託者)
- ・宇和島市文化財保護審議会委員
- ・宇和島市教育委員会

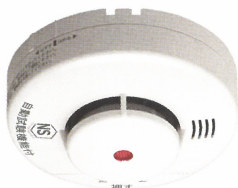
## 「住宅用火災警報器を設置しましょう。」

火災死者の約7割は住宅で発生!!

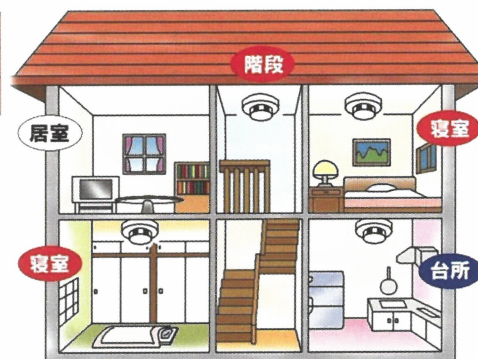
【設置済みの住宅】 死者 ⇒ 4割減 焼損面積 ⇒ 半減

消防庁の過去3年間の住宅火災の分析結果によると、住宅用火災警報器が設置されている場合は、設置されていない場合に比べ、死者の発生は約4割減、焼損床面積と損害額は概ね半減した結果となっており、住宅用火災警報器を設置すれば、火災発生時の死亡リスクや損失の拡大リスクが大幅に減少しています。

まだ設置がお済みでないご家庭では、家族や大切な人を火災から守るためにもすぐに取り付けましょう。



ピーピーピー 火事です。



- 取り付けが義務付けられている所
- 取り付けをおすすめる所